

(4)

委員會指揮の委員多宗久藤東丁了、炭鉱關外機もとる
アキラケ田中源太郎、木林源太郎武田謙也、交響
樂家吉田源一郎、大庭美園、新井源蔵、源蔵三十餘名以
六月十日

此

半額の強制

- ① 給飯料も同齊金暗黙の回答を怠り次のアある。
- 本要款の懲り炭鉱ア別轉暗黙の結果要本を察する。
- ③ 今回ア争端外埠も懲り辦事會出をちる。
- ④ 半額中日餘氣賛同金額會擴販敵。
- ⑤ 三條の續風音の遅延。
- ⑥ 逃亡人出入自由。
- ⑦ 暫風の續音の遅延、時人空虚なる。
- ⑧ 番組頃善農夫諸君氣憤。

財團法人協調會福岡出張所

(5)

と共に、別紙(一)の如くアジビヲ並に基金袋を左眞友
並團体に送付して其の應援を求めたのである。

② ○アモ計畫、午後大時限等職員約二十名は本部より
尺無坑、製電所を経て隣接の蔵内鐵業、大峯二坑々夫
納屋附近に至り別記(二)のビラを散布したので警察當局も
より解散を命ぜられて午後八時限本部に引上げた。
一般報道者も動搖の傾向ありて朝一番方入坑者は平常
百餘人のところ五十八人に過ぎず。

六月十一日

前記のアモ敢行の爲指導者たる西部鐵山等鐵組合田川
文部幹部平野鹿藏等四名所新後藤寺警察署に拘束せら
れたので氣勢昂らず何等見るべき行動なかりしも、尙
當日の入坑者は五十七人に過ぎなかつた。